

7 番（小川義昭君）

先に進みます。

次に、行政が知恵を絞るソフト面の施策のありようを伺います。

都市計画マスタープランに明記してありますように、本市のにぎわい創出地域の核は鶴来地域、美川地域、そして都心である松任地域が、中心市街地ゾーンであることは言うまでもありません。したがって、これら地域に培われたそれぞれの歴史・文化・経済などの特性を生かし、コミュニティーや町なかのにぎわいを再生させる施策が目下、喫緊の課題かと考えます。

これらの地域の町なかのにぎわいを再生させる施策面においては、幸いにして観光施策面で行政が指導し、白山市観光連盟が発足した事例があります。しかし、肝心なことは発足した観光連盟が何をなし、何を生んでいくのかということに尽きるのです。やはり行政にこそ主体となる意識がなければ、ソフト、ハードの両面からの地域の魅力の掘り起こし、見直しはできません。

ここで作野市長に求めておきたいのは、御自身が白山市の各エリアに点在する地域の魅力や個性、可能性を見きわめる目ききであってほしいということです。そうしたみずからの素養が多彩な施策の優先度を割り出し、そこから手始めに行うべき仕事も明確になってくるのです。

この広い自治体に施策実行の早い地域と遅い地域が存在するのであれば、白山市全体の融和を図っていくことも不可欠であります。どうすれば市民の一体感を醸成し、さまざまな地域が連携し、調和のあるまちづくりを進めていけるのか。これは合併自治体に宿る永遠の宿命であり、この難しい問題に向き合う一つの手だてとして、私は鶴来、白山ろくを含む美川、松任というこの地域を結ぶアクセス機能の整備を最重要課題として提起いたします。

特に本市の都心である松任地域と、ほかの地域を結ぶアクセスは重要です。松任地域は美川地域とはJR線でも結ばれておりますが、鶴来地域とのアクセス機能は極めて不十分です。本来であれば合併特例債を活用して大規模な縦貫道路をつくるべきかと考えますが、とりあえず当面はJR松任駅から鶴来本町通りへ1時間に1本程度のバスなどの交通機関を定期的に運行させることです。そうすれば、鶴来地域、さらには白山ろく地域の連携も今以上に活発となり、鶴来地域からの野々市、金沢方面への市民の流出はなくなるであります。

しかし、立ち足る財源の問題を鑑みれば、事は簡単ではありません。そこで私案を1つ申し述べます。市内には大規模な事業所を初め、多彩な企業集積があり、こうした企業が従業員の送迎に使うバスを企業市民バスに登録して、松任駅や公立松任石川中央病院始発のバス路線を試みてはいかがでしょうか。

従業員を送迎しない日中、各地域にある企業所有のバスを運用することで、小さな路線が重なり合う図式となり、何度か乗り継ぎながらも鶴来と松任、白山ろくなどを結ぶ交通網が確保できれば、お年寄りなどの交通弱者、買い物弱者の救済にもなり、同時に白山市の一員という意識を強める企業群との連携も深まっていくのではないのでしょうか。

これらの中心市街地ゾーン、地域の町なかのにぎわいを再生させる具体案に関しましては、多彩な人材の能力を組み合わせた企画集団の組織化もおもしろいと考えます。白山市内には定年を迎えてふるさとの親元に戻った、例えば元大手商社マン、一線を退いた税理士や建築設計士、デザイナーなど行政が持ち得ない経験とキャリアを積んだ方々が、必ず存在しております。

そうした優位な即戦力を組織化して、白山市が運営するまちづくりコンサルタントを組織し、それぞれの地域の魅力創出などに知恵を出してもらおうのであります。これらはソフト事業であり、大きな予算の計上も必要ないでしょう。私が提起したのは1つのまちづくりモデル案ですが、何もかも大都会から呼んだコンサルタントに委ねることは避け、文字どおり手づくりの白山モデルと呼べる施策を打ち出して、鶴来、当然、白山ろくを含みます、美川、松任地域の町なかのにぎわいを再生していただきたいと切に願うものであります。

北陸新幹線金沢開業に向けて、これ以上、白山市が周辺自治体の果敢な施策に指をくわえているわけにはいきません。こうした提起案も念頭に、市長御自身のまちづくりに関する具体的な青写真をお聞かせください。